

メールマガジン

第五号(シンポ特集)

2006/9/20

1 目次

- トピックス
- 梶山千里九州大学総長 日中学術交流国際シンポジウム 挨拶
- 劉益春東北師範大学副学長 日中学術交流国際シンポジウム 挨拶

2 メールマガジンへの寄稿

九州大学北京事務所では、中日研究・教育や九州大学OBの活動に関する情報、集会やイベントの案内など、メールマガジンの原稿を募集し、九州大学教職員・OB及び関係各位に配信します。ご寄稿くださる場合は、電子メールまたはファックスにて、九州大学北京事務所宛にお送りください。電子ファイルを添付していただくと、編集が効率的にできます。

3 事務所だより

①9月8日：今年四月、中国での活動拠点として設置した北京事務所の開設を記念する「中日学術交流国際シンポジウム」が北京市翠宮飯店にて開催されました。シンポでは発表した資料は整理し終わった次第 <http://www.kyushu-ucn.net/XinXi.asp?XinXild=211> または <http://www.kyushu-ucn.net/Japanese/XinXi.asp?XinXild=214> にてダウンロードができます。

②本メールマガジンは今年四月、創刊して以来、ご愛読いただき、有難う御座います。8月にシンポと同窓会総会を準備のため、勝手にながら、本誌の発行をお休みにしました。今月より、通常通り発行します。今後とも、ご指導とご鞭撻をお願いします。

編集代表者：九州大学北京事務所長 九州大学中国同窓会事務局長 宋 敏
発行：九州大学北京事務所 九州大学中国同窓会事務局
住所：〒 100086 北京市海淀区中関村南大街甲6号铸诚大厦B座2008室
電話：+86-10-5158-1387 ファックス：+86-10-5158-1367
メール：peiking_office@yahoo.co.jp (日语)
kyudai_ob@kyushu-ucn.net, kyudai_ob@126.com (中文)

トピックス

1

9月8日 日中学術交流国際シンポジウム 開催

2006年9月8日、中国での活動拠点として設置した北京事務所の開設を記念する「日中学術交流国際シンポジウム」が北京市翠宮飯店にて開かれた。シンポは日本の国際研究協力事業説明会から始まり、各分野における九州大学OBの研究動向、九州大学の国際戦略、国際共同研究の最新動きなどについて幅広く、発表した。シンポには九州大学にゆかりのある中国人学者ら約八十人が出席。

2

日本の国際研究協力事業に関する説明会

9月8日に開かれたシンポの一環として、日本関連機関の国際研究協力事業に関する説明会を開催し、日中学術交流の現状、事業内容、未来計画などにわたって幅広く情報交換を行いました。

在中国日本大使館神田忠雄一等秘書官は、「日本の科学技術」、「日本の科学技術政策」、「日中合作」、「査証」の四つの部分に分けて、日本の科学技術の発展動向、日本の科学技術政策体制の仕組み、日本の科学技術計画、日中合作の最新進展及び日本の査証制度などについて詳細に紹介し、日本の科学技術計画の全体像を描きました。



日本学術振興会(JSPS)北京事務所山口英幸首席代表はJSPSの概要、JSPSの方針と政策、研究交流内容、人材招聘事業においてJSPSの中国事業を紹介しました。また、日中両国間の交流実績、及びアジアとの研究教育項目についても事例を挙げて説明。JSPSは日本における学術促進の中核的実施機関として、共同研究、シンポジウム開催、研究者交流などの面において、大学などの研究機関の学術活動を支援している性格について理解を深めた。

科学振興機構(JST)北京事務所加藤芳宏首席代表はJST発展歴史を紹介したうえ、主にJSTの五つの主要業務、すなわち新技術の創出に資する研究、新技術の産業化開発、科学技術情報の流通促進、科学技術に関する研究開発に関わる交流・支援、科学技術に関する知識の普及及び国民の関心・理解の増進について詳細に説明。JST事業への理解を深めた。



■ トピックス ■

新エネルギー産業技術総合開発機構(NEDO)北京事務所田端祥久首席技術代表はNEDOの概況、日中研究者の共同研究現状、NEDOの研究支援制度の利用方などにおいて、NEDOの事業内容を紹介しました。特に日中研究者の協力現状を分析し、今後の協力方向や、NEDOの研究支援制度を利用する際に注意すべき事項などについても説明しました。



国際協力機構(JICA)北京事務所藤谷浩至次長は中国における日本のODA(政府開発援助)の事業内容を説明し、具体例としては研修生の受入れ、日本の専門家の派遣、器具の提供、開発調査、青年招聘事業などについて紹介しました。また、環境保護、伝染病対策、相互理解の促進などにおける日本政府援助プロジェクトの実施状況をも説明しました。

国際協力銀行(JBIC)北京事務所小中鉄雄次長はJBICの人材育成事業について紹介。人材育成事業において重点となる大学との連携の契約形態、最近の大学との連携事例などを説明し、特に大学との連携において、「事業の形成、実施、効果促進などを支援する調査(SAF)、そのほかの調査」、「事業・プログラムの事後評価」、「円借款事業等における留学生・研修生の受け入れ」、などについて詳細に紹介しました。



日本国際交流基金(JPF)北京事務所藤田安彦所長は、JPF北京事務所設立の背景と目的、主な事業内容、特にJPFが中国で長年展開してきた北京日本学研究中心の状況と22年前から始まった「日本語能力試験」の実態を、詳細なデータやグラフなどを利用して紹介しました。

2

九州大学中国OBの研究動向

「日中学術交流国際シンポジウム」では、湖南大学肖岩教授、南昌大学喻小念教授、北京科学技術大学楊槐教授、何氏視覚科学学院何偉院長、中国農業科学院宋敏教授が、各分野において、基調報告するなど、幅広く提言した。

長江学者、湖南大学土木工程学院肖岩教授は『インターネットによるリモート耐震実験における国際研究』をテーマとして、研究の背景、結果、国際協力体制、及び今後の研究課題などにつて報告した。



■ トピックス ■



南昌大学第一附属病院喻小念主任、教授は『中国における心身医学の発展と推進』と題し、ストレス社会における新たな健康問題、心理あるいは精神障害の増加、心身症の拡大を背景に、中国における心身医学の研究や普及の必要性を語った。

長江学者、北京科学技術大学楊槐教授は、中国のLCDパネル工業及びTFT-LCDパネル材料の応用状況を説明し、北京科学技術大学における液晶材料の研究体制、進展及び成果について講演した。



何氏視覚科学学院何偉院長は、何氏眼科病院の発足、沿革を触れながら、病院の医療システムと保健システムなどの多面的な機能を生かして、様々な社会福祉事業にも取り組んでいる事例を説明した。最後に「東北老工業基地」を振興するために、眼科病院を経営しながら、生物科学技術産業にも進出する抱負を語った。

中国農業科学院宋敏教授は、東アジア資源環境、フードシステムの一体化の中に、不適切な農業生産活動による攪乱が環境、食安全性に及ぼす悪影響を問題視し、そしてこうした環境負荷を軽減するためには、アジア版GAP及びアジア共通の農業資源環境政策の策定によって人間活動を是正しなければならないことを提言した。



3

九州大学の国際交流及び国際共同研究戦略

シンポでは柳原正治副学長が九州大学の国際学術交流、共同研究戦略について基調講演を行い、農学研究院今泉勝己院長、芸術工学研究院源田悦夫教授がそれぞれ農学院の研究現状と戦略、デジタルコンテンツの先端的な研究などについて講演した。

九州大学柳原正治副学長の講演では、アジア重視を強調した九州大学の国際戦略を説明し、さらに国際的知的拠点の形成、アジアネットワークの構築、アジア総合研究の推進を主旨とした国際交流における戦略的プロジェクト、及び九大が取り込んでいる日中韓連携プロジェクト、大型日中共同研究の状況を報告した。



トピックス



九州大学農学研究院今泉勝己院長は農学部の研究現状を説明し、さらに「生命、水、土、森、そして地球から学び得た英知を結集し、人類の財産として次世代へ伝え、人類と地球環境の豊かな共存を目指して、進化する農学を実現する」という農学研究院の使命のもとに達成すべき目標に向けて、農学研究院が新農学生命科学領域、環境科学領域、アジア研究領域と食科学領域を四つの重点研究領域として取り組んでいる最新動きを紹介した。

九州大学芸術工学研究院源田悦夫教授は『九州大学デジタルコンテンツ創成支援プログラム』をテーマとして講演した。講演ではまずは文化庁文化交流使活動内容及びその背景を紹介し、それから日本のコンテンツ産業の市場規模とコンテンツ産業の波及効果を分析し、九州大学先導的デジタルコンテンツ創成支援ユニットやエンターテインメントの背景となる論理、造形手法、数理と造形、人体デジタル計測スタジオ及びその実用化状況について報告した。リアルな写真やDVDを通してコンテンツに関する最新研究成果を披露し、会場では大歓声。



4

九州大学梶山総長一行 北京事務所を訪問

2006年9月9日午前10時、九州大学梶山千里総長をはじめ、柳原副総長、農学研究院今泉院長、横川副院長及び国際交流推進室の方々が九州大学北京事務所を訪れました。宋敏所長をはじめ、杜孝平、李同帰、王志剛及び徐環李四副所長が梶山総長一行と会談し、北京事務所の運営状況や今後の事業計画、課題などについていろいろな意見交換しました。会談では梶山総長は事務所の今までの努力を評価し、これからも、九州大学の中国での拠点として、しっかり機能していけるよう、大きく期待を寄せました。



日中学術交流国際シンポジウム開催にあたりまして、九州大学を代表して一言ご挨拶申し上げます。

本日は、ご多用中にも関わらず、劉(りゅう)東北師範大学副学長 及び 李(りー)留日学人会会長のご臨席を賜り誠にありがとうございます。



九州大学では、“世界的規模での競争的協力関係の構築”という本学の国際戦略に沿い、海外の企業等との共同研究等の促進、支援及び海外における学術情報の発信、収集を行うため、2004年4月、アジア及び欧米地域の拠点となる4都市、ロンドン、カリフォルニア、ミュンヘン、ソウルに海外オフィスを設置しました。

そして、2006年4月、アジア重視戦略を更に推進するため、中国における学術研究の中心である、ここ北京にオフィスを設置致しました。北京事務所では、海外オフィスの一つとして、様々な情報の発信及び受信、本学の国際戦略に対する助言及び提案、九州大学への留学希望者、研究希望者に対する相談窓口業務、帰国留学生の組織化支援業務、メールマガジンの配信を行うなど、幅広い活動を行っております。

さらに今回、北京事務所の諸活動の一環として、第一回シンポジウムを開催できたことは、非常に喜ばしいことでございます。このシンポジウムが、活発な情報の提供、交換、大学の発展のための提言の場として成果を挙げ、九州大学のアジア重視戦略を一層強化するものとなることでありましょ。

九州大学は、「アジアに開かれた大学」を標榜し、多くの優秀なアジアからの留学生を受け入れて参りました。特に、中国からは、毎年500名前後の留学生を受入れており、これは本学の留学生の約45パーセントを占めております。本日もご出席のOBの皆様方のように、九州大学への留学生が、帰国後、本学での留学経験を生かし、母国の発展のために活躍し、各界の指導的立場で活躍しておられることは、九州大学の名誉であり、誇りでもあります。

このようなOBの方々同士の繋がり、さらには九州大学とのネットワークを構築し、一層強固なものとするために、2004年12月には在中国九州大学同窓会を組織しております。宋事務所長には、同窓会事務局長としても具体的活動に従事していただき、北京事務所は帰国留学生ネットワークを活かした活動も目指しております。

このようなシンポジウムなどの諸活動を通して、帰国留学生の方々、21世紀の日中関係を担い、未来に向けてしっかりとした掛け橋となり、長く交流を続けてきた両国の緊密な関係を深く認識し、双方の文化や生活、考え方などの共通点と相違点をより深く理解し、共にお互いの心情を思いやることができるようになれば、両国の関係がさらに素晴らしいものとなることと確信しております。

最後になりましたが、今回のシンポジウムを開催するにあたり、ご後援をいただきました日本学術振興会及び科学技術振興機構の皆様、心より感謝申し上げますとともに、宋先生をはじめとする事務所関係者の方々には多大のご尽力をいただき、誠にありがとうございました。ご出席の皆様方におかれましては、今後とも九州大学へのご理解とご支援をお願いするとともに皆様方のますますのご健勝を祈念し、私の挨拶に代えさせていただきます。

ありがとうございました。

尊敬する梶山学長、学友の皆様、来賓の皆様、ご在席の皆様：

こんにちは。九州大学第二回同窓会および中日交流国際シンポジウムの開催に際し、学友を代表してご挨拶を申し上げさせていただき、とても光栄に存じます。また、学長の史寧中および私自身を代表し、今回の同窓会および中日交流国際シンポジウムが開催することをお祝い申し上げます。

この場をお借りして、衷心より同窓会のお仕事に感謝の意を申し上げます。また、この機会をくださった会議の組織委員会にも感謝の意を申し上げたいと思います。九州大学中国同窓会が成立してわずか二年ですが、意義のある仕事をたくさんされ、学友の間、学友と母校の間、および中日両国人民の間の交流の架け橋となりました。

私が九州大学で勤めた時間は長くないが、そちらの研究の環境が深く印象に残りました。私と九州大学のもう一つの源は家内は九州大学大医学部で博士号を取ったことです。彼女は九大の学長が北京にいらっしやったことを知り、長春での学術活動を急いで終らせ、北京にきました。これは九大のコンプレックスと言えるでしょう。

東北師範大学と日本の交流は長い歴史を持ち、建校初期日本国籍の教師が多くの学院で勤めていました。これは私のもう一つのコンプレックスです。1979年に作られた中国赴日本国の留学生予備学校は東北師範大学に設置してあり、ご在席の皆様の中で留日予備学校で日本語を勉強し、日本留学にいらっしやった方が多いでしょう。東北師範大学と九州大学が長年に渡って協力することによって深い友情が結ばれ、姉妹校となりました。私たちの学校の学長、第一回九州大学中国同窓会の会長史寧中教授は九州大学の卒業生です。九月十日は東北師範大学建校六十周年の創立記念日で、史寧中会長はそれでいろいろ忙しく、本日の大会に参加できず、九大の学長、また皆様によるしくお伝えるよう私が来る前にくれぐれも言いました。

実際、私たち九大で留学した留学生はどこに行っても、九州大学で留学した思い出がずっと深く心に残っています。九大の隆盛と発展は私たち永遠の祈りです。この場をお借りして、母校が松柏のように常緑で、世界の名門校のりっぱな風采を永遠に保つようお祈り申し上げます。

最後に、中日友好を促進し、より広い範囲で学術と人材の交流を盛んにし、より多い方面での理解と協力を促進し、力を合わせて人類の文明と社会の進歩のために一緒に頑張りましょう。

最後に、中日交流国際シンポジウムが円満に開催されることをお祈り申し上げます。ご在席の皆様がご健康で、万事が思い通りでありますようお祈り申し上げます。

また、第六期再見!